

「経営パラリンピック」～福祉革命:「福祉と経営の融合」への挑戦～

代表者 藤井 彰彦

企画概要 福祉事業所における「福祉と経営の融合」の実現支援とビジネスモデルの体系化に挑戦する社会変革活動である。福祉事業所と一体となり、関係者の力も幅広く結集して進めている。第2回パラリンピックは平成15年9月15日に開催する。

結果報告 開催日時 2003年9月15日(月) 敬老の日

午前10時から 午後5時

会場 大阪産業創造館 4F

〒541-0053 大阪府中央区本町1丁目4番5号

プログラム

10:00～ 開場

10:30～11:00 開会のごあいさつ、および、学生からのご報告

11:00～12:00 基調講演 小倉昌男様(ヤマト福祉財団理事長)

12:50～16:20 活動発表 福祉事業所(6事業所)

小倉昌男様及びコメンテーター様によるご講評

10:00～16:30 福祉事業所、および、学生によるバザー出店

主催 山本ゼミ(愛称:どこでもゼミ) 福祉革命部 (京都産業大学)

後援 財団法人ヤマト福祉財団、大阪成蹊大学現代経営情報学部、京都新聞社会福祉事業団、大学コンソーシアム京都、朝日新聞文化厚生事業団、きょうされん京都支部、きょうされん大阪支部、大阪府社会福祉協議会セルフ部会、近畿地区社会就労センター協議会

協力 松下電池工業株式会社

基調講演および総評 小倉昌男様(ヤマト福祉財団 理事長)

コメンテーター 應武善郎様(NPO 法人大阪障害者雇用支援ネットワーク副代表理事)

亀井勝様(社会福祉法人ひびき福祉会 所長)

川内晶介様(ユニチャーム株式会社 開発本部長(執)常務)

村岡正次様(大阪障害者雇用情報センター障害者雇用アドバイザー)

前回の「第1回経営パラリンピック」に引き続き、今回の「第2回経営パラリンピック」はヤマト福祉財団の小倉昌男理事長をはじめとして、多くの皆様のご協力とご支援のおかげで見事に成功を収めることができました。参加者のほうも前回は越える330名以上の方に来ていただいて、まことにありがたく厚く感謝しております。

障害者の自立と社会参加を目指す、つまり「福祉と経営の融合」というものをテーマとして6つの事業所に、それぞれの「経営の知恵と工夫」を発表していただきました。また同時開催としてバザーも行い、今回は学生もバザーを開かせていただきました。

当日に会場に来ていただいた方々の激励をはじめ、アンケートの結果や電子メールにおける感謝のお言葉から、実に多くの皆様に喜んでもらったことを非常にうれしく思っております。今回の経営パラリンピックに取り組んだゼミ生は、通常の学習では体験することのでき

ない貴重な体験をさせていただいて大いに感動しております。

今後は NPO 法人「経営パラリンピック委員会」として活動していくこととなりますが、自分たちの足で福祉事業所の現場に訪問し、心のこもった会話を重ねることで、障害のある人々の生きがいや働く喜びを見出すこと、すなわち「福祉と経営の融合」を目的として活動していきます。今後も地道に活動を行う中で、第1回・第2回の「経営パラリンピック」をつうじて学んだことを、次の「第3回経営パラリンピック」に生かせるようにしていきたいと思っております。

「経営パラリンピック」から学んだこと

- ・ 経営パラリンピックが無事に終わったこととあの大会は様々な力によって成り立っているということを実感しました。福祉革命部だけでは成立できない。小倉理事長や NPO 法人の理事の方々やお世話になった福祉事業所のみなさん、それとどこでもゼミのみんなやその他大勢の力が融合した結果が経営パラリンピックなのです。そのことを忘れて、福祉革命部だけでできたと思心してはならない、いつも様々な力に囲まれ、支えられて活動が続いていることを忘れてはならないと思いました。この感謝する気持ちを忘れる事無く、今よりもっと多くの人の役に立つ大会を目指して活動していきたいです。
- ・ 事業所を訪問するたびに、日々の価値観を考えさせられました。毎日の生活では自分本位な考え方で行動していました。訪問に行くとき一生懸命働いてらっしゃる姿を見て感心し、そして自分の怠慢さを恥ずかしく感じました。またこんなに一生懸命働いておられるが、環境や待遇が悪い福祉の世界を自分は何をするべきか考えるようになりました。
- ・ 私が学んだことは「良い人づくりが良いモノづくりにつながる」ということです。良い商品とは何か、良いサービスとは何かを追求するためには、良い人を育てていかななくてはならないということ自分の肌で感じる事が出来たのが、この「経営パラリンピック」です。また、人を育てていくことで自分自身も大きく成長していけると思いました。
- ・ 私が得たものは「私たちの活動を喜んでくれる人たちがいる」ということです。本当の意味での「お役に立つ」ということを学びました。「第2回経営パラリンピック」当日の盛況ぶりから見ても、こんなに多くの人たちがこの活動に興味を持ち賛同して下さったことを本当に嬉しく思います。また、私たち福祉革命部が訪問した福祉事業所の方々も合わせて、「経営パラリンピック」に本当に多くの人に来ていただいて感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・ 会場の雰囲気や、アンケートから、たくさんの方が「福祉と経営の融合」を求めている！ということを実感しました。経営パラリンピックを通して僕が得たものは、「人との出会いがうむ感動」が大きいです。この活動をしていたからこそ、たくさんの人とであい、たくさん感動が生まれました。その感動をもっと多くの人に知ってもらって、「経営パラリンピック」というものが日本の福祉革命の先駆けとなるように広めていきたいと思っております。
- ・ 日々の活動の中で、自分たちの足で多くの福祉事業所に訪問して、多くの人達と心のこもった話をする事や、福祉事業所で作業を行っている人たちの作業を実際に現場で見ることで、障害のある人たちの真剣に働いている姿に大変感動しました。その感動を「第2

回経営パラリンピック」で多くの人たちと共有できたことが自分の中ですごく貴重な体験となりました。

- ・ この活動の中で実際に障害者の人たちと一緒に働く機会をいただき、シーツの裏表を合わせる仕事やアイロンがけの作業をさせていただきました。一緒に働くことで「障害者は働けるんだ！」ということ、現場に足を運び見て肌で感じてきた以上の実感が体験できました。このような体験を学生のときから体験できたことは将来の自分にとってとてもプラスになっていくと思います。

感想 第二回が終わって(前)

第二回経営パラリンピック、大成功じゃないだろうか？当日のお客さまの雰囲気と、家に帰ってすぐに読んだアンケートでそう思いました。アンケートを読んだときは身震いがとまりませんでした。アンケートには疲れを吹き飛ばすぐらいの威力がありました。

なぜ成功したのか？

小倉昌男様をはじめとたくさんの方の協力がありましたが、学生が主体になっている大会でなぜこんなにたくさんの人に来ていただけたのかを考えてみました。

第一に

第一に僕たちが毎日やっている目と足で稼ぐという「現場主義」の精神のもと、夏休みを返上し、福祉事業所の現場を訪問させていただき、学習と対話を積み重ね、知恵と工夫を集めるという「草の根作戦」を緻密に繰り返した結果やと思います。

さらに付け加えると、福祉事業所を訪問して心と心を通い合わせることができたことが感動を生み、その感動が見えない力となって、たくさんの人に広まったのだと感じています。

第二に

第二に経営パラリンピックには社会的な意義があるからじゃないでしょうか。小倉昌男様は経営パラリンピックがきっかけとなって企業が一般雇用で障害者を雇い、障害者が健常者と一緒に働き、それが常識になるとおっしゃられました。これが真の意味の「ノーマライゼーション」なんやと理解しました。

経営パラリンピックの魅力

僕はこの経営パラリンピックをきっかけに、心の中の見えない差別をなくし「心のバリアフリー」を目指したいと思いました。このような様々な「きっかけ」をたくさん作り出すのが経営パラリンピックです。見る人によって、こんなにも色をかえる大会なんて他にないと思いました。学生なら福祉事業所の現場を直視できるようになるし、企業の人には障害者は立派に戦力になる！！ということが伝えられ、地域の方には障害者が生き生きと働いているところを見せることができる。さらに、共通して皆さんに元気を分けることができ、忘れかけていた感動をもよみがえらせることができる。それがこの経営パラリンピックの魅力なのです！！

「福祉と経営の融合」の第一歩

僕は、会場の雰囲気や、アンケートから、たくさんの方が「福祉と経営の融合」を求めている！ということを実感しました。先生が言われている「私たちはお互いに生かし生かされあう関係にあり、さらに積極的にその関係に報いる(つまり、お役に立つ、喜ばれる)生き方が求められている、という普遍的な真理にむかって力を尽くし、励むという真の経営」を学び実践したいという気持ちと、

「障害のある人のない人も、互いに支え合い、生き生きと活動する」という福祉を实践したいという思いを参加者の皆さんが持っていらっしゃる。まさにこれが「福祉と経営の融合」の第一歩ですね。小倉昌男理事長の言われていることの意味はこういうことなのかな、と思い、その一端を体感できてうれしいです。

経営パラリンピックを通して感じたこと

経営パラリンピックを通して僕が得たものはたくさんあります。その中でも特に「人との出会いがうむ感動」が大きいです。この活動をしていたからこそ、たくさんの人とであい、たくさんの感動が生まれました。それをもっと広めていきたいです。メンバーみんなが違うことを感じているはずです。主催者側からみても色を変えるのが経営パラリンピックなんやと思います。

自分の役割

自分の役割としては、全体を見て、みんなが活動をしやすくことなんです。これがあまりできなかったことが残念と言えば残念です。もっと全体を見る力があるなあと、感じました。

第二回が終わって(後)

あまりにも大成功過ぎて、夢じゃないかなあと思ったぐらいだった。そして次の日にはまた、経営パラリンピックがあるんじゃないかと錯覚していた。自分たちが主体となっている大会であんなにもたくさんの人が感動してくれるのは本当にうれしかった。来年に向けてたくさんの課題があるけど、それを乗り越えて来年にはもっとたくさんの人に感動を持ち帰ってほしい。